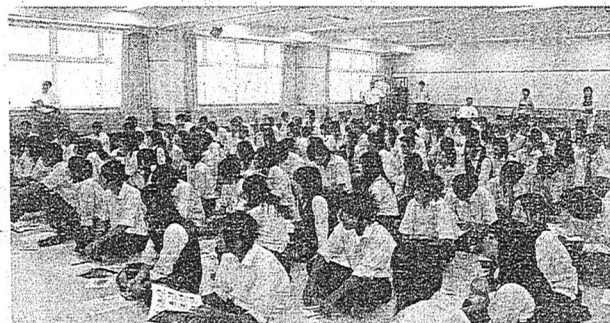


講義をする神戸夙川学院大学の皆さん



講義を聴く生徒ら=12日、県立新翔高校

高翔 観光について学ぶ

新 連携協定の神戸夙川学院大と

和歌山県立新翔高校（尾崎元治校長）は12日、同校の1年生156人を対象に「観光」について連携協定を結んでいる神戸夙川学院大との高大連携授業を行い、同大学の小野田金司、田邊文彦、蝦名大助の教授3人と、2回生の坪井章、吉村一葉、中川僚子、福田

達也さんの計7人が講師を務め「世界遺産熊野と観光」について講義した。

田邊教授は田舎と都会の自由度と人との触れ合いについて「都会は自由だが触れ合いは少ない」とし「都会の人が田舎で人と交流し、田舎の人が都会で自由に過す。足りないも

のを交流で補うことが観光です」と話した。

小野田教授が観光は昔に比べ体験型に変化しつつあり、外国からの観光客が増えているためこれからの観光のキーは語学であると説明。

また串本町での修学旅行「民泊」を、10日に現地サポートと体験観光を学ぶための事前

研修を受けた坪井さんら4人の学生は「今までしたことのない貴重な体験ができた」「魚のさばき方を教えてもらった」などと感想。小野田教授は「観光とは難しいものではなく楽しいこと、遊びでめくった。皆さんに住んでいす。皆さんの世界遺産や串本まで行けばサンゴなど観光の素材はたくさんあります。よその人に聞かれた時に田舎で終わらせないで」と締めくくった。

南紀州新聞 H.20.9.14付